

久留米

〔March 25, 2016〕

高専通信

第81号

久留米工業高等専門学校
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>

卒業生・修了生に贈る言葉
「常日頃の生活こそ舞台」

本科卒業生・専攻科修了生の皆さん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。卒業生・修了生をこれまで支えて来られた保護者の皆様をはじめ関係各位のご篤志に敬意を表するとともに、心より御祝い申し上げます。

21世紀に入り、地球環境、エネルギー、資源、人口、ICT社会変革、地域紛争等々人類は未曾有の諸課題を抱え、人類史は閉塞状況にあるかに思える一方、明るい兆しも見えています。その端的な例の1つが、宇宙開発です。空気も、重力もなく、およそ生命維持に適さない宇宙空間で、人類の未来のために、先端技術・科学を駆使して、命懸けで、人類の生存の可能性を追求しているNASAやROSCOSMOS、JAXAのスタッフのご尽力には感服するばかりです。とくに、欧米人以外で初めて国際宇宙ステーション(ISS)の船長を務めた若田光一さんのご活躍には目を見張るものがあります。

若田さんが船長を務めることになった背景には、日本の宇宙開発技術のレベルの高さやその面での日本の経済的・人的貢献に加えて、緊急対処能力や状況把握能力、調整力など若田さんの持つ宇宙飛行士としてのずば抜けた資質があるとされています。とくに、調整力については、若田さんは、出身国他多様なバックグラウンドを持つ宇宙飛行士たちを「忌憚なく意見を言い合い、その中から最善の道を見出す」「和」の精神(『若田光一 日本人のリーダーシップ』)でまとめ上げ、見事に船長の任務を果たされました。

若田さんの活躍は、高専教育にも大いに参考になるところがあると思います。卒業生・修了生の皆さんは、実践(実験・実習・演習)から理論(講義)へとスパイラルアップ(善循環)しながら、各専門分野を究め、創造性を養って来ました。そこで培った技術・科学に関する能力は「高専スピリッツ」として、就職においても、進学においても、高く評価されていくことになるでしょう。また同時に、授業以外でも、課外活動や諸行事の中で、先輩・後輩、学友、そして教職員との交友を通して、リ



久留米工業高等専門学校
校長 三川 譲二

ーダーシップやコミュニケーション能力を磨いて来ました。後は、久留米高専の卒業生・修了生として、誇りと自信と勇気を持ち、堂々と歩むだけです。

ご卒業・ご修了に際して、^{はなむけ}饞に次の2つの言葉を紹介したいと思います。

1つは、江戸後期の肥前平戸藩主松浦静山の剣術指南書『常静子剣談』の中の「楽屋は、いろいろと準場を整える場であるから、どのようにでもやりかえる事ができる。ところが、舞台に出たらはやり直しがきかない。ここのところをよく考えるべきである。…剣術の世界でも、稽古場は楽屋であり、常日頃の生活こそ舞台であることを、よく理解、認識すべきである」という言葉です。卒業生・修了生の皆さんは、今まさに、久留米高専で学んだものを実行して行く日常の世界、日常というやり直しがきかない人生の舞台に立とうとしています。皆さんのご成功を祈らずにおられません。

しかし、その日常は、必ずしも平坦ではありません。いま1つは、日米通算4213本の安打(世界第2位)の他、数々の記録を打ち立てているイチロー選手の言葉です。イチロー選手は、今年2月、宮内義彦元オリックス会長との対談の中で、「日々やっていることを同じようにやるのが大切だと信じています。心から持っていくのは難しいですが、体をいつもと同じように動かせば、そのうちに心がついてくる。心が積極的になれないときのテクニクです」と語っています(『PRESIDENT』2月15日号)。「前人未到の記録へチャレンジする「奇跡の42歳」と称されるイチロー選手にも、心が前向きになれない時があるのか、と改めて驚くとともに、イチロー選手のこの言葉は、平常心の大切さとそれを保っていくためのヒントを私たちに教えてくれているように思えます。

卒業生・修了生の皆さん、「日常」を大切に、研鑽と精進を積み重ね、健康に留意され、浮き沈みや起伏を伴うことが不可避である人生の舞台をよりよく生き抜いて行ってください。ご多幸をお祈りします。

卒業生の言葉

卒業 ～S.O.T.S.U.G.Y.O.U～

機械工学科5年 秦 友眞

希望と少しの不安を胸に久留米高専の門を通り、入学してきた5年前が今でも昨日のように思い出されます。光陰矢のごとしという言葉があるように、月日が流れるのはあっという間で、あれから5年の月日が経とうとしています。この5年間、本当に色々なことがありました。友達とふざけあったり、笑いあったり、時には衝突し、お互いに涙することもありました。今ではどれも素晴らしい思い出たちです。

5年間を通して、久留米高専には「変わり者」や「変人」が多くいると感じました。しかし、それは悪い意味での「変わり者」や「変人」ではなく、自分のこだわりは絶対に守ったり、馬鹿が付くほど真面目だったり、病的なくらい負けず嫌いだったり、長所と言っても過言ではないものを持っているな、と思う場面が多々ありました。毎週日曜の夕方に放送されているサザエさんに出てくる某中島くんのように、口を開けば「野球しようぜ!!!」としか言わない友達や、下手くそな歌でリサイタルを開催する、藤子・F・不二雄作のドラえもんに登場するガキ大将みたいな友達(劇場版では超いい奴)……は、さすがにいませんでしたが。

先生方にも個性的な方が多数いて、それぞれに売っているのか、と聞きたくなるくらい奇抜な服装をされる先生や数学科の先生にもかかわらず、化学や社会の分野に恐ろしいほど精通している先生等、中学校時代からは想像も付かないような先生ばかりでした。1990年代に某少年誌で連載された鬼のような手で妖怪や悪霊を退治する先生や、金曜の8時に放送されていた前髪を垂らしながら漢字の成り立ちを語る先生……は、さすがにいませんでしたが。(そもそも、3年B組なんて存在しない……)

私たちは、久留米高専を卒業して、社会人になる者もいれば、まだまだ学業に専念する者もいます。やることや進む道は違うけれど、同じ釜の飯を食った同志として互いに切磋琢磨しながら、久留米高専を卒業したことを誇れるような人間を目指して日々精進していきましょう。

デメリットを抱えて

電気電子工学科5年 井本 至

まず、3年連続で49期生がこの場に文章を書くことをお詫び致します。

"卒業生の言葉"ということで、私はこの高専生活の7年間を振り返ってみました。…大丈夫です、こちらは"電気電子工学科本科5年生の卒業の言葉"のページで間違っていない。

過去を振り返って見るといろんなことをしてきたと思い、それらを纏めようと頭の中で考えて居たら、「え…1000文字で足りるの…？」と言う結論に至りました。それほど長いのです、7年って。小学生が中学生になります。

なので、私は"留年"について話すことが使命なのではないのか?と思いました。凄く自意識過剰です。

まず、留年生は留年してない学生と違って何が足りないのか?そう、学習単位が足りません。いろいろと言いついてはいる人もいますが、それを一言にまとめると「単位が足りなかった」で言い終わります。留年しても見栄を張りたいのです。

留年すると、当然ですがクラスメイトが変わります。単純に考えると友達が増えます。しかし、特に1年生で留年すると、留年後のクラスメイトから怖がられます。というより、引かれます。私も、その反応は至極当然だと思います。

留年すると、地元の友人にあった時に困ります。…その友人には「留年しなかった時の学年」を伝えました。「ばれないからセーフ」とか思っていたのでしょうか。

留年は、デメリットしか無いと思います。実際、辛いことは結構ありました。ですが、留年して、時間が出来たことにより、自分を見直し、自分がやりたいことを決め、実際に僕が現在、内定を頂いた企業もそれに近い事業です。

また、留年した先のクラスで気が合う仲間と出会い、「AmericanJOKER」という集団を組み、高専イベント等で6年間もパフォーマンスを行うことが出来ました。楽しい思い出です。

それと、…これは、良かったことであるかは考えものですが「1年生コンテストを2連覇した」という経験も出来ました。この記録はタイになることは有るかもしれないですが、破られることは無いですね、1年生を3回することは出来ませんから。

以上を持って、私は「留年はデメリットではあったが、無価値では無かった」と現在の状況に立ったことで思える様になりました。そうでないとやってられません。

もし、これを読んでいるあなたが留年生、もしくは留年が決まった学生だったとして、ここまでの私の文言をどう解釈するでしょうか?「安心」はしてほしく無いですが、少しでも今後の糧になって頂けたら、幸いです。

でもまあ…、留年しない方が千倍いいですよね…。

卒業生の言葉

高専での目標

制御情報工学科 5年 中島 裕司

先日、「高専での目標」という紙を渡されました。5年前の私が、これからの高専生活をどのように過ごしたいかを書いたものです。渡されたその日は卒業研究の発表が終わって一息ついていたり、5年前の目標なんて恥ずかしくて、みんな笑ったり見なかったことにしたりして、私にもやけながら読んでいましたが内心は失笑していました。

人には忘れていても思い出せる再認可能忘却と、言われても思い出せない完全忘却があるそうです。私は5年前に目標を書いたこと自体も全く思い出せませんでした。大雑把にいうと彼は「勉強も部活も頑張るゾ」ということを書いていました。ちょうどその時、先生が5年間楽しかったかというような質問をしていて、5年間を振り返ってみるとなんだかんだいっても楽しかったと思いました。ただ、なにか違和感があって、大体は目標に近いようにやってきていて、そこに書かれた文字も自分のもののように見えるのに、何故か別の人の目標のようでもありました。

目標は、立てたら一貫していることが良くて、5年前の目標を忘れてしまっていたのは勿体なかったと思います。5年前の私は、なんで目標なんて書かされるんだと思ったでしょうが、今では5年間もキレイに保管して頂いたことに敬意と感謝の気持ちしかありません。さらにはこのように文章も書かせて頂いて、目標を立て直す良い機会になりました。

エビングハウスの忘却曲線というものがあって、それによると人は覚えたものを、20分後には42%、1時間後には56%、1日後には74%も忘れるそうです。実験のように定量的ではありませんが。私は、明日やろうと思ったら大体は忘れてしまうタイプですが、今回は不意に出された5年前の目標が凄くショックだったりして考える機会も多かったのも、今度はきっと大丈夫でしょう。何年後か何十年後かにどこかでこれを読んだとき、今の自分の目標を覚えていられるか、楽しみです。



いつかまた会えたら、もう一度・仲間と呼んでくれますか？

生物応用化学科 5年 高橋 優弥

長いようで短かった高専5年間が終わりを告げ、5年間で起こった様々な出来事が思い出されます。仲間と過ごした5年間は、私にとってかけがえのないものになりました。ここで、1年生から振り返ってみたいと思います。

期待と不安を胸に入学した1年生。授業初日、入学式では見なかった顔が教室に現れ、留年というものがあるのだなと思いました。私も、専門の化学と生物の単位を落としそうになり、留年を覚悟しました。1年生といえば1年生コンテスト！私のクラスはAKB48のヘビーローテーションを踊っていたのですが、男子が女装をすることが当時の私にとって衝撃的だったのを覚えています。

学校に少し慣れてきた2年生。正直あんまり記憶無いです。唯一、体育祭で生化が史上初の三冠をしたことだけはこの先もずっと忘れたいと思います。

運命の分かれ道3年生。ひたすら忙しかったです。勉強に関しては、週二の実験と留年させるぞおじさん達の猛攻に苦しめられた1年でした。しかし、楽しいこともたくさんありました。クラスのキャンプ、高専初のお化け屋敷。この頃は腹筋が割れるくらい笑った1年でした。

意外と忙しかった4年生。先輩から4年からは楽だと聞いていたのですが、みんな話が違っているとぼやいていました。4年生はなんとといっても工場見学旅行！工場のことはあんまり覚えてないです。ディズニーランドが死ぬほど楽しかったです。ディズニーランドに足を踏み入れたら最後。そこでは楽しい以外の感情がなくなります。

いよいよ最後5年生。5年が一番楽しかったです。特に高専祭・体育祭は、悔いのないよう何事にも一生懸命でした。ウォーリーやったり、アイドルやったりとみんな忙しかったですね。この1年でなにより嬉しかったのは、私の代で生化三冠を達成したことです。あの瞬間をもう一度体感したいと何十年後も思うことでしょう。

私は、久留米高専生であったことを誇りに思い、高専で出会った先生方や仲間達に感謝し、高専での思い出を一生大事にして生きていきます。そして、いつかまた会える日を楽しみに待っています。

卒業生の言葉

出会いに感謝

材料工学科 5年 三池 友樹

5年前、初めてメインストリートに立ったとき、空を見上げて、今日からここで勉強するんだなあと大きく深呼吸したのを、私は覚えています。ついこの間入学したような気がするのですが、遠い遠い未来の話だと思っていた卒業の日が、いつの間にか来てしまいました。

私は高専に来て、たくさんの人に出会いました。クラスで、部活で、たくさんの仲間ができました。今思い出されるのは、材料科での何気ない日常、それから、部活で馬鹿みたいにボールを追った青春の日々です。泣いたり笑ったりしながら本気でバレーをしたこと、泊まり込みで友達と一緒に勉強したこと、みんなでご飯を食べに行ったこと…挙げればきりがありませんが、どれも忘れられない思い出です。

私は、友達が友達であるということに自信がなくて、この単語を口に出すのが嫌いでした。とても曖昧で、自分が決められることではないと思っていたからです。しかし5年の月日を経て、今自信を持って言います。少なくとも私は、高専で出会ったみんなが友達であると思っています。喜怒哀楽をもにしたみんなが、自分にとってかけがえのない存在です。

高専で出会った友達、先生方の生き方、考え方は、私の生き方、考え方に強烈な刺激を与えました。一つ挙げるならば、ある先生の「自分たちはなにで勝つんだ」という言葉でしょうか。「負け」ばかり目についていた私にとって、これは自分に価値を見いだすよききっかけを作り、生き方にゆとりを与えてくれたものであります。

私は5年前、この誌面で「新入生の抱負」を書きました。その中で私は「初めて自分で選んだこの進路を悔いのないようになにに過ごしたい」と述べています。今、卒業にあたり、高専生活に(ほんのちょっとしたこと以外には)悔いはありません。ではこの場をお借りして、少しだけ改変して、未来の自分への抱負を書きたいと思います。「これから先も、自分の選んだこの進路を悔いのないよう思いっきり過ごしたい。」みんなに出会えたことに感謝し、野心を持って前に進んで行けたらと思います。



修了生の言葉

極上の高専生活

機械・電気システム工学専攻 2年 本松 寛

専攻科を含めて高専での生活は毎日が楽しく充実したものでした。この2年間、創造工学実験や産業デザイン演習などの専攻科特有の授業も面白かったのですが、やはり研究活動が印象的です。研究室のゼミでは自分の能力の低さを痛感させられ泣きそうになったこともありました。また、論文執筆においては英語力不足により査読で弾かれたり、ギリギリまで文章の修正をしたりしたことをよく覚えています。学会に関しては計4回参加させていただきました。発表する緊張感や達成感心地良いのですがそれ以上に、多種多様な研究発表や著名な方の基調講演、研究者との交流などは刺激的な経験でした。学会終了後は、同行した専攻科生との街の散策や観光、ツアー参加、ホテルの鍵探し(笑)などとても満喫した時間を過ごしました。

よく先輩なんかには、専攻科は行かない方がいい、と一度は聞いたことがあるかもしれません。私自身そういった噂を何度も聞いたけれど、実際は全くそんなことはありませんでした。確かに専攻科には、本科での多くの友達が就職、他大学へ進学する中、これといって出会いもなく寂しく研究生活というイメージがあるかもしれません。しかし、結局は自分次第でどうにでもなります。いかにその状況を受け入れ、行動を起こして楽しいものにするのが大切だと思います。専攻科では自分の好きなだけ研究ができ、国内や国外の学会へ参加し、高い志を持った研究仲間とも友達になれます。また、希薄になりがちな他学科の学生や先生方とも繋がるのが出来ます。専攻科、めちゃめちゃおすすめです！

7年間の高専生活では多くの方々に支えられてきました。特に制御情報工学科の黒木先生には専攻科2年間お世話になりました。正直、最初はどうなるかと内心不安だらけでしたが、画像処理の研究はとても楽しく、先生との研究の議論は至福のひとつでした。専攻科での経験を糧にあと2年間、黒木研及び進学する大学の名に恥じぬよう、より一層勉学に精進します。加えて、本科5年生での卒業研究だけでなく専攻科でも様々な形でお世話になった同学科の丸山先生、本科での4年間熱心にバドミントンをご指導して頂いた顧問の龍頭先生にも厚くお礼申し上げます。さらに、7年間同じクラスで過ごした武井君、福島君、藤吉君にも感謝しております。3人がいたからこそ研究を楽しめたし、苦しいときも頑張れました！ありがとうございました、これからもよろしくお祈りします！

修了生の言葉

あの日～久留米高専で得たもの～

物質工学専攻2年 志岐 亮輔

久留米高専での7年間という膨大な時間が過ぎ去り、故郷を離れることとなった今、率直に思うことは、久留米の美味しいB級グルメをもっとたくさん食べておくべきだったなあという事です。失って初めてその大切さに気付く、という言葉の意味を改めて理解した気がします。

さて、私は青春時代と呼ばれる時間のほぼ全てを、この久留米高専で過ごしてきました。思い出と言われれば、それこそ話すと7年かかってしまう程たくさん有りますが、その中でも、人生を変えたと言っても過言では無いあの日の事を思い出します。私は、本科専攻科を含めた3年間を通じて、有機材料に関する研究に取り組んで来ました。専攻科では外部発表が義務付けられており、先生のご厚意で私は計3回ポスター発表をさせていただきました。それは北九州で行われた、私にとって初めての学会発表の日の事です。私は周りの大学院生のエネルギーに圧倒され、自分の研究成果に自信が持てず、只々時間が過ぎるのを待っていました。その帰り道、今までやってきたことは間違っていたのかと悔やんでいると、昔ある先生から言われた言葉を思い出しました。

「反省しなさい、後悔はしなくていい。」

昔を振り返り、嫌な記憶を引きずってしまいがちな性格であった私は、この日を堺に後悔することを止めてみました。考えないようにしたのではなく、未来に目を向けるようにしたのです。すると、実験に失敗した時、実験ノートは成功した時よりもびっしりと埋まっている事に気が付きました。失敗の原因を考察し、次へ次へと研究を進めた結果、二度目の発表では、他大学の学生や先生方とディスカッションし、有意義な時間を過ごすことが出来ました。後悔では無く反省をする事は実はとても大切であり、自信に繋がると気づかせてくれたこの出来事は、私にとって大切な思い出です。来年度からは、また新たな場所での学生生活が始まりますが、専攻科で身につけた反省の心を忘れずに踏ん張っていきたく思います。文頭で書きました久留米に対する想いを、私にとって最後の後悔の念とします。

最後になりましたが、7年間お世話になりました生物応用化学科の先生方をはじめとする久留米高専関係者の皆様、共に青春を謳歌した仲間たち、そして支えてくれた家族に感謝申し上げます。

退職教職員からの言葉

巡り巡りて

機械工学科 岩本 才次

いよいよ3月で41年間の教員生活に終止符を打つことになりました。

九大に34年間、鹿児島高専に5年間、そこで定年を迎え、そして久留米高専に再雇用で2年間お世話になりました。合計で41年間です。

私は50年前、久留米高専の金属工学科(現在の材料工学科)を受験し合格しました。当時は久留米高専創立3年目で、大変な難関だったことを覚えています。結局友人がみんな福岡高校に進学するというので、親に懇願して私も友人と同じ道へ進みました。

しかし、人生はどこに試練が待ち構えているか分からないものです。トップに近い成績で合格しましたが、高校2年ときに肺結核を患い、治療薬ストレプトマイシンの副作用のため成績は急降下しました。かろうじて卒業したものの、一年間のつらい入院生活を送りました。退院後予備校に通うものの思うように成績が上がらず、やっと私立の長崎造船大学に入学しました。健康を得たせいもあって、そこでの学生生活は楽しく、勉強も面白く、友人も多く得ました。

4年生のときに九大造船学科から助手の募集があり、運よく採用されました。採用の条件は5,6年したら造船会社に出すというものでしたが、会社に行けば設計部長ぐらいにはなれると高をくくっていました。生意気でした。しかし人生そうは簡単に問屋が卸しませんでした。31歳のときに癌を患いまた入院する羽目に陥りました。そのときは死を覚悟しましたが、九大病院で一命を拾うこととなります。退院後教授から、お前はもう会社に推薦できないからここに居ろ、万年助手でも飢え死にはしないからそうしろ、と引導を渡され現在に至るわけです。私は大学に残りたくて残ったわけではないのですが、研究の面白みが分かってくると夢中になりました。

その後癌の再発もありましたが、巡り巡って、最後に久留米高専にたどり着いたわけです。

最後の教員生活を思い出の久留米高専で過ごせたことは幸せでした。感謝いたします。

今思うことは、人生万事塞翁が馬、置かれた環境で努力していると、いつかチャンスが巡ってくるということです。人生捨てたものじゃない。

ちはやぶる 浪にもまれつ まほかたほ 真帆片帆 ちとせ 千歳の浦に ひとかはら 一航泊つ



退職教職員からの言葉

未来が過去を作る

機械工学科 山村 基久

「人生には三つの坂がある。上り坂、下り坂、そしてまさかである」(小泉元総理)

人生には、人智では計り知れない出来事が起こるようです。私の人生は、決して自慢できる代物ではない。浪人して大学へ。



数学で留年し、大学院へ。卒業後は高専にと望んだが果たせず、研究生で残留し、ようやく踏ん切りがついて、企業に就職。しかし突然、恩師からの一本の電話で転職。一通の手紙で結婚。開発業務は体力勝負。昇進しながらも、転属・転勤・単身赴任。家族のためにと頑張っているのに、家族と離ればなれでいいのか？すると50代半ばで会社が背中を押して退職。どうせ死ぬなら好きなことがしたいと次の仕事を模索していたら、瀬戸内寂聴さんや秋田稲美さん、Kristinさんと出会い、巡り巡って高専に採用された。教壇に立ってみると、企業の経験が私の強みになっていた。そして、最後には郷里に戻って、この久留米高専での幸せな2年間を過ごすことができた。

まさかこんな展開になろうとは、思ってもいなかったが、今改めて過去を振り返って見ると、一見バラバラの過去が意味を変えて今に繋がってくる。たくさんの躓きとともに、ワングルでは自然の雄大さと人間のちっぽけさに気づき、保護観察のボランティアでは貧困と子供たちに出会い、留年時に創部した演劇部では人間の心の奥深さに触れ、企業時代の、利害を離れた勉強会では、異業種の人々と出会い、世の中の本質を探る目を磨かれ、海外出張では、文化を暮らしに取り込む心の豊かさと基本的な人権への考え方の違いを学んだことが、今の自分の幅を広げてくれた。

「どれだけ面白い小説を読み どれだけ美しい絵を見 どれだけすばらしい人々と出会ったか これが私たち人間にとっての最後の財産となるのです」(瀬戸内寂聴)

順調な人生も、順調でなかった人生も、きっとその人にとっての必要な要素だったのだと思います。

「過去が未来を作るのではなく、未来が過去を作る」
さて、私はここで次の未来へ。ごきげんよう。

『同じ高専なんだ！』と気付いた1年間

機械工学科 篠崎 烈

「ついこの前、最初の挨拶をしたような…」という言葉で、退職や転出される方々がよく言われます。「そんな大げさな！」と毎年思っていました。いざ自分がその身になってみると、もっぱら大げさでもない



ことに気付きました。久留米高専に来て、たった1年、されど1年、私の11年目の高専教員生活で非常に新鮮な1年を過ごさせて頂きました。まずは、感謝いたします。有難うございました。

久留米高専では、多くの学生、教職員の皆様と話げできました。講義、卒業研究、クラブ活動、高専祭や体育祭、体験入学や入試など、これまでの教員生活で体験していた普通のことばかりでしたが、「こうも違うのか！」ということを感じたことも多々あります。また、一方では、「やっぱり高専だな！」と感ずることも多々ありました。1つ1つを挙げればキリがないので止めておきますが、隣の高専から来た私を仲間に加えて頂き、一緒に活動させてもらえたことは、これからの私の人生の糧になることは間違いありません。皆さんのお力になれたかどうかは分かりませんが、私が久留米高専に居た、という形が残せたら私としては嬉しい限りです。

その様な久留米高専生活の中で、冷めやすいか冷めにくいかは別にして、特に「高専の学生は熱い！」ということを確認しました。自分の高専学生時代から感じていたことを、井の中の蛙だった教員としての自分の中で確認できたことが何よりの収穫だった、と思います。文字にすると語弊がありそうですが、「久留米も有明も同じ高専なんだ！同じ、高専の学生なんだ！」ということに気付きました。そのきっかけが何だったかは分かりません。ただ、多くの皆さんと接した中で気付いたことだと思います。だからこそ、成績のよし悪し、野球の上手い下手に限らず、久留米高専で接することができた皆さんに興味があります。これからの長い人生の中で、変わっていくであろう皆さんの将来を何らかの形で知ることができれば、一つの結果として影ながら喜び、さらに応援させていただきます。

特に個別の思い出は挙げませんでしたが、本当に良い1年間のチャンスを頂きました。本当に有難うございました。久留米高専の一ファンとして、今後、学生の皆さんが卒業して世界中で大活躍し、教職員の皆様が日々コツコツと学校を支えられ、久留米高専が益々発展することを、心から願っています。

追伸：最後に一言。有明も負けませんよ！

退職教職員からの言葉

退職にあたって

機械工学科 助教 大津 健史

この3月をもって、4年間の教員生活を過ごした久留米高専を退職することとなりました。この間、機械工学科の先生方をはじめ、教職員の皆さま、学生の皆さんには様々な面でのご支援をいただきました。この場を借りて、深く御礼申し上げます。



私は大学院修了とともに、2012年4月に久留米高専機械工学科に着任し、初めての教員生活をスタートすることとなりました。科目は機械設計・製図を主に担当し、1年生から5年生まで幅広く、講義を受け持たせていただきました。当初は、教えることの難しさを感じる日々が続きましたが、学生の皆さんの頑張る姿が駆動力となり、私自身も成長できたのではないかと思います。講義の中でも、1年生の機械製図Ⅰや2年生の図学といった手描き製図を主体とした講義では、学生の皆さんが図面を何度も描き直し、製図に対して真剣に向かい合ってくれた姿を今でも憶えています。図面は技術者の言葉といわれる通り、図面からはそれぞれの思いが伝わり、技術者としての成長を垣間見ることができました。また、研究面では、研究室の学生と多くの成果を得ることができました。参加した学会では、学生が堂々と発表をする姿を見ることができ、今では大切な思い出となっています。

4年の期間においては、教育、研究面だけでなく、学校運営の仕事にも多く関わらせていただきました。2014年度には、創基75周年・高専創立50周年の記念事業に携わらせていただき、本校の歴史を振り返る機会に立ち会うことができました。その中で、初代校長の和栗先生の教育理念を学び、それは学校や教育の理想について改めて理解することにつながりました。本校での経験は、今後、私自身の財産になっていくものと感じています。

今後は、学校の外側からとなりますが、久留米高専のことを応援していきたいと思っております。本校の更なるご発展を心よりお祈りいたします。本当にありがとうございました。

退職にあたって

電気電子工学科 吉田 智博

平成25年4月に着任した久留米高専を3年の任期満了に伴い退職することになりました。3年間の短い間でしたが、電気電子工学科の皆様を始め、ソフトテニス部の顧問をご一緒させて頂いた先生方、業務を通してお世話になりました方々には多大なご配慮を頂きまして、この場を借りて深く感謝申し上げます。



着任してからの3年間は私自身が他高専ではありませんが高専出身者ということもあり、高専独特の自由な雰囲気懐かしさを感じたことを覚えています。話は変わりますが、私は半導体材料を専門にしており、半導体分野に関連する科目を主に担当していました。半導体を構成する原子や半導体中の電子、正孔といわれる電流の担い手(キャリア)というのは、自分のエネルギーが高くなる事を嫌がり、外からエネルギーを与えられて高い準位に置かれてしまった場合、放っておくと勝手にエネルギーが低くなる方向に向かって動いていきます。学生の頃から原子やキャリアは人間と似ていると親近感を覚えていました。ただ、人間の場合はそれではダメで、自らエネルギーを与え高いエネルギー準位へと押し上げていかなければ生き残っていくことは困難であろうと思います。では自らエネルギーを与えるにはどうすれば良いのか？を考えてみると、自分が到達したい目標を設定し、そこに届くように行動する必要があるかと思います。その目標は編入学に合格すること、就職先が決まるといった短期的な目標ではなく、最終的にどうしたいのか？という長期的な目標を立てて、それに向けて自分のエネルギー準位を上げていく必要があるのだろうと感じています。このエネルギーが低い方に動き易いが、動く訳にはいかないというのが人とキャリアの違いだろーと思います。特に高専の自由な校風は外部からのエネルギー供給も少なく低いエネルギーに向かい易い環境だろーと思いますが、向かった先は原級留置です。今からでも高いエネルギー準位を目指して、自らを上げて行って頂ければ自分の目標とするところに到達できるのではないかと思います。

最後になりましたが久留米高専の益々の発展と、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。3年間大変お世話になりました。

退職教職員からの言葉

5年間お世話になりました

制御情報工学科 松本 光広

平成23年4月に制御情報工学科の助教として着任させていただき、昨年には准教授に昇任させていただきました。着任から早いもので5年の月日が経ちました。この間、多く教職員および学生みなさまに支えられて仕事を進めることができました。この場をお借りして教職員および学生みなさまに感謝の意を示します。大変お世話になりました。



久留米高専に着任してからの5年間で、教育、校務および研究について、さまざまな仕事に携わることができました。教育では、制御情報工学科の科目として制御情報工学概論、加工実習、製図Ⅰ、製図Ⅱ、応用数学Ⅰ、設計製図、CAD/CAM、制御工学実験および卒業研究を担当させていただき、主に機械系の製図およびCADを学生に教授することができました。また専攻科機械・電気システム工学専攻の科目として、創造工学実験および専攻科研究論文を担当させていただき、社会に役立つものづくりを学生に教授することができました。校務では、制御情報工学科3年生のクラス担任、寮務主事補および産学民連携部門マネージャーを担当させていただき、クラス、学生寮および産学民連携テクノセンターの運営に携わることができました。また部活動では、サッカー部およびロボットコンテスト部の顧問を担当させていただき、練習試合、高専大会、新人大会、合宿および高専ロボコンの地区大会への引率として学生みなさんと一緒に九州各地に出掛けることができました。研究では、自身の専門分野である知能機械学、機械システムおよび計測工学について研究を進めて、複数の研究成果を学術論文として主に日本機械学会論文集に掲載することができました。また各種財団から助成いただき、研究をさらに進めることができました。

4月からは大学の教員として仕事を進めていきます。久留米高専の5年間で得られた経験を生かして、教育、校務および研究に邁進したいと思います。

毫釐千里

一般文科 平元 道雄

「^{ごうり} ^{せんり}毫釐千里」という四字熟語をご存じだろうか。最初は僅かな間違いでも、そのままにしておくと、ついには取り返しのつかない大きな誤りを生むという中国古典の言葉だ。「五十にして四十九年の非を悟る」という箴言がある。反省能力は人間に与えられた尊いもので、人として向上するためには決して欠かせないことを教える名言の一つである。どちらも二十歳前後の時に出会い、なるほどと納得し、気にかかる言葉として記憶してきた。が、当時は頭だけの理解で、^{からだ}身体に刻むようにして会得するには長い時間がかかった。というより、四十年の教員生活に終止符を打つという最近になって、殊に身に染むように実感しているというのが本当のところである。



「法華経」という仏典がある。専攻の関係で、先輩から一通り読んでおけと言われた作品だが、^{うかつ}迂闊にも一通りで済ませていた。日本文化の底流に法華経が深く関わっていることに気がついたのは、ずっと後のことである。それが十年ほど前、ある事を契機に、法華経を毎日読んでみようと思立ち、一日数ページ、声に出して読んでいる。古典中国語を訓読した妙法蓮華経二十八品を読み終えるには、二ヶ月ほどかかるが、この十年近く、欠かしたことがない。

2006年、4年生の工場見学旅行の引率で東京に行った折、私は神田の古本屋で、店先に裸本のまま無造作に積まれていた日蓮の全集4冊本を買った。「昭和定本」と称されるもので、実は以前から欲しい欲しいと思っていたから、何かしら運命的な出会いを感じたものである。このことを機に、一日のノルマを決めて、声に出して読んでいる。親鸞や道元の文章も味わい深い、日蓮の文章には独特のリズムがあり、声に出して読むのにふさわしい。古典の教科書に採録されていないのが残念である。そしてこの間、三回ほどは読み返したのだろうか。

学生時代、大部の著作に挑戦しては何度も挫折していた。読み通したという本は正直少ない。国語教員でありながら「源氏物語」はダイジェスト本に止まり、読破していない。私の教員室に来る学生は、書籍の多さにまず驚き、決まって全部読んだのかと尋ねる。理系と異なり、文系は図書が商売道具である。退職後は、読みさしていたこれらの著作を心ゆくまで読み通したいというのが今の私のささやかな願望である。

退職教職員からの言葉

退職にあたって

一般文科 教授 江島 孝則

福岡県立高等学校での7年間の教員生活を経て、昭和56年4月に久留米高専に英語科の教員として赴任してきました。久留米は小学校から高校までを過ごした故郷です。在任中は、いろいろな先生、学生、職員の方々に会い、楽しく教員生活を過ごすことができ幸せに思っています。学級担任、教務主事補、学生主事補、寮務主事(補)、図書館主事(補)、学科長など様々な職務を勤めさせていただきました。42年間の教員生活の中で、特に印象に残っていることが幾つかあります。



赴任して間もない時期の、宝満山登山や大宰府四王寺山ハイキングに行った秋の遠足のことです。学生や同僚の先生と一緒に弁当を食べたり、湯を沸かしてコーヒーを飲んだりしたことが、頂上からの素晴らしい景色とともに、心に残っています。(現在は授業時間数の確保のため秋の遠足は無くなりました。)

平成3年に、米国カリフォルニア州立大バークレー校で、在外研究員として過ごした1年は、実り多いものとなりました。C. フィルモア教授のもとで英語学(語彙論)の研究を行い、教育方法や教育内容に大きな自信と力を得ることができました。

寮務主事として寮生に関わったこともいい思い出です。新入生から専攻科の学生まで、年齢差の大きい学生たちが親元を離れて共に生活する寮で、規則を守らせ規律を保たせることに大変苦労しました。寮の運営、寮生の指導や寮の泊りに協力頂いた先生、寮務係の方には心から感謝しております。

また、平成17年度と平成19年度に高等専門学校機関別認証評価の専門委員として幾つかの高専の認証評価に携わったこともいい体験でした。他高専の状況を知り、本校の状況と照らし合わせ、その後の取り組みに役だてる機会を得ることができました。

最後になりますが、長い教員生活を大過なく全うできたのは皆様のご指導、ご鞭撻の賜物であり、この場をお借りして皆様に感謝申し上げます。久留米高専が今後益々、社会で活躍する人材を育て上げていかれることを祈念いたします。

応援団

総務課課長補佐(総務担当) 吉光 豊

平成25年4月1日、久留米高専に赴任して、はや3年が過ぎようとしています。

2月末に、九州大学から「久留米高専に行きませんか。」と打診があり、まず頭に浮かんだのが、「久留米まで2時間弱、往復4時間の道のりを3年間か。大丈夫かな。」という思いでした。家庭の事情もあり、単身での赴任はできない状況でした。

それから、はや3年。過ぎてしまえば、あっという間の3年間でした。

この3年の間にも、公私ともに色々なことがありました。まず思い出すのは、認証評価。赴任当初、「11月に認証評価があるのでよろしく。」と、蓋を開けてみると、1からのスタートでした。幸い、関係スタッフのご尽力により、何とか乗り切ることができました。2年目になると、記念事業。またまた、関係スタッフのご尽力により、素晴らしい記念事業を実施することができました。

思えばこの3年間、優秀なスタッフに恵まれ、常に支えられてきた3年間だったように思います。この紙面をお借りしまして、皆様に感謝申し上げます。

私的な事では、2年目の夏から、里子を引き取ることになり、家庭環境も一変しました。当時、「里親になりたい。」という我が妻に対し、猛然と反対運動を起こしました。「人様の子を養育するなんてそんな無謀なこと、(しかも期限なし。)責任が持てんやろう。」と、「子どもの身に何かあったらどう責任をとるのか。」と。妻の脅しと熱意に負け、止む無く里親となり、今に至っています。上司や同僚の理解も得られ、皆様の、これまたご尽力により、何とかやり過ごすことが出来ました。皆様へ感謝です。今では、孫といってもいい様な幼稚園児と楽しく過ごさせてもらっています。今後も、里親としての過大な責任はつきまといますが、遠い久留米の空の下から、「あんなやつもいたな。」「頑張ってるかな。」と、思い出していたければ幸いに存じます。

こんな私も、4月には本校を後にします。大学も大変そうですが、高専も、今から大変な時代に入っていくそうです。高専には、優秀な人材や強力な応援団もおられますので、皆さんの力を結集して、これからやってくるであろう大波を乗り切ってください。これからは、久留米高専応援団の一員として、遠い福岡の空の下から応援させていただきます。



退職教職員からの言葉

ある日の大庭Aと大庭Bの会話

総務課総務係長 大庭 弘睦

大庭A「九州大学へ戻るに際して高専通信用に寄稿してくれ、だってよ。」

大庭B「あまり気がのらないなあ。」

大庭A「お前らしいなあ。でも、全体送別会に出席できない可能性が高いから、紙面上で各位に挨拶しとこうぜ。」

大庭B「そうだな。それにしてもさあ、着任後しばらく経って地域手当10%が0になることを知った時は衝撃受けたよなあ。年収が数十万円減だからなあ。ちゃんと事前に言っとけっっちゃうの。」

大庭A「確かに。でもさあ、お金だけじゃないだろ？かつて教職を目指した者として、現場に近いところで教員の味方になって教育活動を支えること自体に魅力を感じたから、久留米に来たんじゃないのか？」

大庭B「違うだろ。教員崩れの自分を救済しに来ただけだろ。」

大庭A「・・・。」

大庭B「で、3年間どうだったよ。」

大庭A「正直、色々あって楽ではなかったなあ。1年目は高専シンポジウムin久留米、2年目は創基75周年・高専創立50周年記念事業に認定専攻科の特例適用申出、3年目は認定専攻科の教育状況等審査にJABEE認定継続審査、というように毎年豪華なメインディッシュが用意されていたもんなあ。」

大庭B「ああ。俺たち小食だからなあ。一部吐き出しちゃったよ。」

大庭A「他にも法人文書管理規則の全文改正、文書処理規則の全文改正、公印規則の全文改正、学校要覧の全面改訂、校内規程類の総点検等、マクロからミクロまで色々やったけど、総じていい勉強になったぞ。間違いなく今後の大切な糧となるね。ただ、実務に追われた等で係長としては成長してない気がするな。」

大庭B「ちょっと強引な面もあって、色々と反感を買ったんじゃないか？」

大庭A「全ては久留米高専のため、という一途な思いによるもの。許してもらおう。」

大庭B「えらい美化してんなあ。単なるエゴだろうよ。」

大庭A「・・・。」

大庭B「しかしさあ、高専も大変だよな。高等教育機関としての大学のような側面と、高等学校のような側面の両方を求められるからな。予算は削減されていく一方だし、先生達はほんと大変だよなあ。」

大庭A「全く。こういう状況だからこそ、事務部門が業務の合理化・効率化を徹底して、なるべく多くのリソースを教育研究活動に費やせるようにしないと。俺たちより若い職員には、健全な批判力、豊かな創造力をもって主体的、前向きにがんばってもらいたいね。」

大庭B「お前自身はそれを実践できてんのかよ。」

大庭A「・・・。で、今の心境を楽曲で表すと何になるよ？俺は「4つの最後の歌」かなあ。ウィスキーでも飲みながらしんみり聴きたいねえ。」

大庭B「哀愁が漂ってんなあ。そんな柄かよ。冷酒と焼酎ロックをチャンポンしながらマーラーの6番なんてどうよ。」

大庭A「・・・。お前、病院に行った方がいいんじゃないか？」

大庭C「お前ら、何だよ、この会話は。ちゃんと原稿書けよ。」



さようならの時が来ました

学生課専門職員 成田 悦子

もうすぐ4月です。卒業式の後には、新入生を迎えます。

平成18年4月に久留米高専に赴任してから10年になりますが、この度、久留米を離れることになりました。教職員のみなさまには、大変お世話になりました。

この10年間、いくつかの業務を少しずつ担当させて頂きました。その中で沢山のことを教えて頂きました。また、いつも助けて頂きました。ありがたいことだと感謝しております。

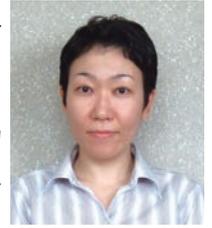
時には筑後川のほとりを歩くことができました。川辺を無心で歩くと、心が落ち着きました。川辺の風が心の塵を払い去ってくれていました。筑後川の風にも感謝です。

これまで教えて頂いたり、助言を頂いたことを久留米高専に還元できたのかどうか。ご迷惑をお掛けしたり、期待されていることに応えられなかったことも多くあったと思います。お詫びをいたします。

ところで、学生は可能性のかたまりだと思っています。その学生を育てる教育機関の業務に携わることが出来て、幸せなことだと思っています。

今まで教えて頂いたことを無駄にせず、これからの業務に生かして参ります。

最後にみなさまのご健康とご活躍、そして久留米高専の益々の発展をお祈りし、お別れの言葉といたします。どうぞお元気で。そして、ありがとうございました。



お世話になりました

総務課人事・労務係 松尾 千秋

私は、平成28年3月31日をもって、久留米高専を退職いたします。

思い返せば、3年前に入職した際には、3年という月日は長いような気がしておりました。しかし過ぎてみればあっという間の3年間でした。人事・労務系の皆様には、いろいろご指導いただき、不慣れな私は、ご迷惑も色々おかけしたと思います。

また教職員の皆様には共済関係等の手続き等でお問い合わせや書類の提出などいろいろお願いいたしました。快く対応いただきましたことを、大変感謝しております。

これから新しい場所でまた仕事をすることになると思います。久留米高専で得た経験を活かし、今後も活躍できるよう頑張りたいと思います。3年間大変お世話になり、ありがとうございました。

最後になりますが、久留米高専の益々のご発展と皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



タイの特別聴講学生について

JASSO海外留学支援制度によるタイの大学生受け入れ

企画主事補 黒木 祥光

JASSO(Japan Student Services Organization: 日本学生支援機構)の奨学金を活用して昨年の11月から1名(学部3年生)、今年の1月から5名(修士2年生)、合計6名を約40日間、タイから特別聴講生として受け入れました。写真は寮の成人式で話す3名と2月17日に校長先生に修了証を授与していただいた時のものです。

JASSOは経済的理由で修学が困難な優れた学生に学資の貸与または給付を行っており、お世話になっている方もいると思います。JASSOは日本人の留学、および留学生の受け入れも支援しており、今回受け入れた学生一人当たり8万円/月×2か月で16万円の奨学金が支給されました。奨学金を受給するためには、学業成績や家庭収入(日本人が留学する場合は英語能力も)の条件を満足する必要がありますが、留学の場合は国内の教育機関が派遣または受入の教育プログラムを作成し、申請書が採択される必要があります。

本校は平成24年度に始まった九州・沖縄地区の高専による大学間連携共同教育事業(代表校は鹿児島高専)「高専・企業・アジア連携による実践的・創造的技術者の養成」の一環として6、7月にタイの大学生をインターンシップとして受け入れてきました。この連携事業では、夏・春の休暇期間に案内されている多数の海外派遣プログラムにみられるとおり、高専生に交通費を支給することができます。一方、海外の学生は支給の対象に入りませんので、過去受け入れた学生はすべて自費、もしくは所属大学からの援助のみで来日していました。アセアン諸国の経済発展には目覚ましいものがありますが、タイの首都バンコクでも大学卒の初任給は5万円に達しませんので、経済的に余裕がある学生しか参加することができませんでした。連携事業の派遣プログラムでは、事業から費用が支給されているとはいえ、タイの大学に大変お世話になっていますので、何とか日本側で経済的な支援ができないかと考え、平成25年度(受入の実施は平成26年度)からJASSOに申請を行っています。我が国の税金で外国人学生に奨学金を

支払うことに疑問を感じる方もいらっしゃると思いますが、この支援の主眼はあくまで日本の教育研究の国際競争力と世界を舞台に活躍する人材の育成に置かれています。従って、受入プログラムを通じてどのように高専生を育てるか申請書で説得力のある主張をしないと採択されることはありません。

平成25年度申請では一旦不採択、ただし追加採択候補における3段階評価の2番目、と判定された後、平成27年の1月に追加採択の候補であるとの連絡を受けました。この時は年度末も迫っており、タイの大学との調整も間に合わなかったため、お断りしました。平成26年度申請(本年度実施)でも不採択でしたが、追加採択候補のうち、5段階の2番目と評価され、9月上旬に追加採択の連絡があり、今回の受け入れに至りました。なお、本年度も同様に申請し、採択の通知をいただきましたので、次年度は6月以降に受け入れる12名の学生に対し、2か月分の奨学金を支給することができます。

これまでの受入プログラムはタイの大学のみを対象にしてきましたが、本年度、シンガポールのナンヤン・ポリテクニクと学生交流の覚書を交わし、4月末から3名の学生を受け入れます。また、さくらサイエンスプランで10名の学生を招聘したいとも考えています。本年度は専攻科と著者の所属する制御情報工学科を中心に英語の授業などで交流を行いました。次年度はできるだけ多くの学科に広めたいと考えています。「海外に行きたい!」という学生に対しては、連携事業での派遣プログラムや、官民協働留学促進キャンペーンである「トビタテ!留学JAPAN」などが用意されています。日本は、自ら学ぶ強い意志をもった学生に対して、多様な支援が用意されている豊かな国です。海外の学生に限らず、交流プログラムで知り合った高専生・大学生と若いときに培った友情は一生の宝になることでしょう。海外に少しでも興味がある学生は、学内での交流行事に参加するだけでなく、派遣プログラムに是非挑戦してください。



学生寮の行事報告

寮の行事報告

寮務主事補 川嶋 克利

冬の寮祭

12月12日(土曜日)、学生寮にて冬の寮祭が開催されました。筑水寮とつつじ寮から、外国人留学生を含めて約170名の寮生が参加しました。午前中は学生寮にて餅つきを行いました。今年三川校長も参加され、留学生も慣れない手つきで餅つきを楽しみました。

午後からは、近くのボーリング場へ移動し、ボーリングでひと汗流した後、寮に戻ってバーベキューでの夕食でした。春のときと違って、雨が降らなかったため、前回よりも楽しいバーベキューだったのでしょうか、寮生の表情が春のときより心持ち明るく見えます。



成人式

1月13日(水曜日)17時45分、学生寮食堂にて、成人式が行われました。今年度は、22名の寮生が新成人となり、寮生がそろって祝いました。寮生を代表して、現寮長の篠崎瑛郷君(電気電子工学科)が祝辞を述べ、新成人の堀尊嗣君(機械工学科、前年度の寮長)が謝辞を述べました。石丸良平寮務主事から、新成人に向けてのお祝いと激励の言葉が述べられたあと、新成人を交えて、いつもの夕食より少し豪華な食事を寮生みんなで楽しみました。



パソコン甲子園

パソコン甲子園

制御情報工学科 2年 前田 南樹

昨年の10月に行われた、「パソコン甲子園2015本戦」に参加して、6位入賞することが出来ました。

パソコン甲子園とは、会津大学主催の高校生向けのプログラミングの大会で、二人一組で参加できます。参加するチームはまず予選に参加して、予選でいい成績を収めたチームが会津大学で行われる本戦に招待されます。

パソコン甲子園では、二人で一つのパソコンを使って問題を解くので、チームワークも重要になります。

予選では、「最初に簡単な問題を僕が解いて、残った問題を二人で別々に考察する」という戦略で臨みました。10問ある問題のうち、簡単な7問目までは最初に僕が片づけました。その後、僕は8問目、相方の菅野君は9問目に取り組みました。しかし、どちらの問題も解くことが出来ずに予選が終了しました。予選の反省点としては、チーム戦なのにお互い違う問題に取り組んでいたことが挙げられると思います。

予選通過は絶望的だったのですが、なんとかギリギリで通過することが出来ました。本戦までの期間は、過去にパソコン甲子園本戦で出題された問題を解いて練習しました。

本戦では、予選での失敗を反省せず、予選のときと同じ方針で挑みました。最初に簡単な問題を片づけたあとは、それぞれ別の問題を考察し、予選のときと同じようにどちらの問題も解くことが出来ずにいました。そこで、僕が取り組んでいた問題を諦め、菅野君の取り組んでいた問題に二人で取り組みました。そして、お互いに意見を出し合いながら解法やコードを修正して、正解することが出来ました。

初めての本戦出場場で6位入賞することが出来て、とても嬉しいです。しかし、互いに全力を出し切れていれば3位以内に入ることも十分に可能だったと思うので、すこし悔しいところもあります。

また、本戦に出場したことによって、今までネット上でしか交流のなかった同年代の強い人たちと交流できたので良かったと思います。昨年もパソコン甲子園の本戦に出場した人から、「この辺にうまいラーメン屋があるらしい」と誘われて一緒にラーメンを食べたりもしました。どのようにプログラミングを勉強しているか質問したり、互いの学校のことを紹介しあったりしてとても充実した交流になったと思います。パソコン甲子園には高校3年生まで参加できるので、今年もぜひ参加したいと思います。



坊っちゃん科学賞

「第7回 坊っちゃん科学賞 研究論文コンテスト」(東京理科大学主催)を受賞して

入賞「スポーツの中の数理」 材料工学科2年 高橋 佑明、武田 蒼史

私達は「確率」をスポーツに応用する研究をしました。例えば、野球のリーグ戦、剣道の団体戦、相撲の巴戦などです。ときにはn次関数のグラフを書いたり、何千個の○×を書いたりして答を導き出しました。今回、色々な視点で物事を考えるという経験をすることができました。

入賞「無限小数の研究」 材料工学科2年 井手 丞、村岡 幸樹

私達は小数点以下が規則性を持った無限小数を研究しました。例えば小数点以下が等差数列になる小数は、

$$0.12345678\dots = \frac{1}{81}$$

と表されます。色々な規則性をもった無限小数を分数の形に表す公式を研究しました。自分達が学んだ知識を応用させて実際に使うのは面白く、達成感がありました。

佳作「拡張されたフィボナッチ数列の研究」 材料工学科2年 豊福 夏希、木村 愛凜

フィボナッチ数列とは

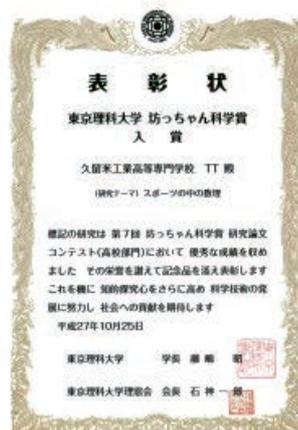
1,1,2,3,5,8,13,21,34,55,89,144,233,377,610,987,...

のように前の2数を足してできる数列です。この数列は、自然界に現れたり、黄金比と密接な関係があります。また、奇数番目の項をたすと

$$1+2+5+13=21$$

と最後の項の次の項の数になるといった性質もあります。初項と第2項を任意の実数に変えるとどうなるかなど、フィボナッチ数列を一般化して考えました。

平成26年3月には高専女子フォーラムでこの研究内容をプレゼンする機会があるのでより理解を深めること、明確な説明ができるようにすることを今後の課題としたいと思います



福岡ビジネスデザインコンテンツ賞

福岡ビジネス・デザイン・コンテンツ賞
制御情報工学科4年 久保田 祥平

福岡ビジネス・デザイン・コンテンツ賞2016で奨励賞、katchaman賞という賞をいただきました。

発表の内容は今年度の高専プロコンで作った作品をそのまま流用したものでした。受賞したものの、自分の能力と意識の低さに悔しさを覚えた苦い経験となりました。

今年度は本賞以外にも、高専プロコンなどでいくつか賞をいただいたのですが、達成感や自分の成長があまりなかったように感じます。

達成感や成長があまりなかった理由は個性を抑え込んで欠点ばかりなくそうとしていたことにあると思います。このことが今年度最もやってはいけないように思います。とりあえず何かバランスが整っていないと個人的に思ったことを修正しようとするうちに結局何も手に入りませんでした。バランスを整えようとする行為は積極性がなく、そのうち頭打ちが来ることは考えればわかることだし、そもそもバランスを整えようとかもっと普通になろうとかそんなことはいろんな人と生活していれば必ず言われることなので、自分から進んで行おうとすること自体無駄なことだと思いました。

この失敗を生かすために、むやみに自分を否定しない、自分の短所をつぶすことを考える前に自分の長所を伸ばすことを意識することを考えるべきだと思います。具体的には少し触っている低レイヤのプログラムをもう少ししっかりと勉強することや他人と比べてプラスになっている要素をもっとしっかりと探すことをしようと思っています。加えて、今以上にそのようなことをすることができる環境を作るためにどうしても英語は避けられないのでとりあえず英語の勉強をしています(やらざるを得ないです)。

ともあれ、今年度はあまり伸びずに精神的に非常に辛い年度ではあったもののいろんなことを考えるいい機会になったと思います。これを糧に来年度は昨年度、今年度よりもっと優秀な成績や大きな成長を遂げようと思います。

来年度も何かの賞を頂いてこの記事を書けるといいですね(笑)。



※写真は左からkatchamanこと勝屋久審査員、まつもとゆきひろフクオカRuby大賞審査員長、著者、部顧問の黒木教員

予餞会

予餞会を終えて 予餞会実行委員会委員長
機械工学科4年 岩川 翔太

この度、1月16日(土)の予餞会に参加していただいた5年生を中心としたみなさん、ご協力いただいた先生方や実行委員会のみなさん、誠にありがとうございました。当日は、天気にも恵まれて過ごしやすい気候のなか予餞会を開催することができました。

本来、予餞会とは「在校生が5年生を送る会」というイベントです。今年も、多くの5年生の方に参加していただきました。しかし、今回の予餞会は、反省点でもある告知不足によって、全体的に来場者不足が目立ちました。来年度の予餞会実行委員会では、しっかりと「在校生が5年生を送る」という本来の目的を達成するため、在校生の参加を第一の目標にし、活動を行っていきます。

現在、私は実行委員会に所属させていただいて3年目となりました。今回、予餞会実行委員会委員長を務めさせていただいて、「委員長」というこれまでの私の立場とはまったく違う視点から実行委員会を運営することができました。そこでたくさんを学ぶことができ、大変良い経験となりました。

予餞会の準備は当日の1か月以上前から始まります。その時は、1か月以上後にある予餞会に対して、何の実感もなく漠然としていて「委員長」という立場に困惑していました。また、予餞会というひとつのことに向かっていくために、実行委員へ必要な指示をして、まとめていく難しさの壁を感じました。しかし自分なりに努力し、実行委員会内での部署と協力して、今回で卒業の先輩方や実行委員が中心となって作り上げた予餞会に対しての五年生たちからの「ありがとう!」や「楽しかったしよかった」という声を聞いたときに、予餞会を行うことができ心からよかったと思いました。

最後になりましたが、今年卒業予定の五年生方、いつこの文章を読んでおられるかわかりませんが本当にご卒業おめでとうございます。後輩の私が言うことではありませんが、それぞれの選んだ道でご活躍されることを心より願っています。



クラスマッチ

後期クラスマッチ

中央執行委員会体育局局长
材料工学科3年 松尾 拓海

随分前になりますが12月9日～10日にかけて前期クラスマッチが行われました。行った競技はサッカー、バレー、バスケットボール、長縄、女子ドッチボール、女子バレーの6競技を行いました。

二日目は雨によりサッカーと縄跳びが中止となりましたが、無事クラスマッチを終わらせることが出来ました。

それでは結果発表です

バレーは1位5年材料2位2年機械3位4年制御という結果で、どのクラスも頑張っていて素晴らしい試合ばかりでした。バスケットボールは1年生の部1位生化2位機械、2年生の部1位機械2位生化、3年生の部1位電気2位生化、4年生の部1位電気2位生化、5年生の部1位生化2位機械という結果になりました。バスケットボールは各学年でトーナメントを組んで行いました、同じ学年で競い合うということで、どれも白熱した試合が見られました。

女子競技は女子バレーが1位2C緩衝液2位haginoreeeenという結果になりました。

女子ドッチボールは1位輪宝2位haginoricという結果になりました。どちらも会場が盛り上がる試合ばかりでした。

今回のクラスマッチはとて面白い試合ばかりで素晴らしいクラスマッチになったと思います。



高専通信第80号訂正

- 高専通信第80号11頁に一部誤りがありましたので、以下のとおり訂正するとともに、関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

▪

平成27年度(平成28年3月)卒業予定者の就職内定状況電気電子工学科欄における企業名を次のとおり訂正します。

(誤)株式会社栄電社 ⇒ (正)株式会社栄電舎

平成28年度 学年暦
前期

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜
1	金	1	日	1	水	1	金	1	月	1	木
2	土	2	月	2	木	2	土	2	火	2	金
3	日	3	火	3	金	3	日	3	水	3	土
4	月	4	水	4	土	4	月	4	木	4	日
5	火	5	木	5	日	5	火	5	金	5	月
6	水	6	金	6	月	6	水	6	土	6	火
7	木	7	土	7	火	7	木	7	日	7	水
8	金	8	日	8	水	8	金	8	月	8	木
9	土	9	月	9	木	9	土	9	火	9	金
10	日	10	火	10	金	10	日	10	水	10	土
11	月	11	水	11	土	11	月	11	木	11	日
12	火	12	木	12	日	12	火	12	金	12	月
13	水	13	金	13	月	13	水	13	土	13	火
14	木	14	土	14	火	14	木	14	日	14	水
15	金	15	日	15	水	15	金	15	月	15	木
16	土	16	月	16	木	16	土	16	火	16	金
17	日	17	火	17	金	17	日	17	水	17	土
18	月	18	水	18	土	18	月	18	木	18	日
19	火	19	木	19	日	19	火	19	金	19	月
20	水	20	金	20	月	20	水	20	土	20	火
21	木	21	土	21	火	21	木	21	日	21	水
22	金	22	日	22	水	22	金	22	月	22	木
23	土	23	月	23	木	23	土	23	火	23	金
24	日	24	火	24	金	24	日	24	水	24	土
25	月	25	水	25	土	25	月	25	木	25	日
26	火	26	木	26	日	26	火	26	金	26	月
27	水	27	金	27	月	27	水	27	土	27	火
28	木	28	土	28	火	28	木	28	日	28	水
29	金	29	日	29	水	29	金	29	月	29	木
30	土	30	月	30	木	30	土	30	火	30	金
31	日	31	火	31	金	31	日	31	水		
		* 専攻科平常授業		* 専攻科平常授業		15日 授業休業		開寮(10:00)			

後期

10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月	
日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜
1	土	1	火	1	木	1	日	1	水	1	水
2	日	2	水	2	金	2	月	2	木	2	木
3	月	3	木	3	土	3	火	3	金	3	金
4	火	4	金	4	日	4	水	4	土	4	土
5	水	5	土	5	月	5	木	5	日	5	日
6	木	6	日	6	火	6	金	6	月	6	月
7	金	7	月	7	水	7	土	7	火	7	火
8	土	8	火	8	木	8	日	8	水	8	水
9	日	9	水	9	金	9	月	9	木	9	木
10	月	10	木	10	土	10	火	10	金	10	金
11	火	11	金	11	日	11	水	11	土	11	土
12	水	12	土	12	月	12	木	12	日	12	日
13	木	13	日	13	火	13	金	13	月	13	月
14	金	14	月	14	水	14	土	14	火	14	火
15	土	15	火	15	木	15	日	15	水	15	水
16	日	16	水	16	金	16	月	16	木	16	木
17	月	17	木	17	土	17	火	17	金	17	金
18	火	18	金	18	日	18	水	18	土	18	土
19	水	19	土	19	月	19	木	19	日	19	日
20	木	20	日	20	火	20	金	20	月	20	月
21	金	21	月	21	水	21	土	21	火	21	火
22	土	22	火	22	木	22	日	22	水	22	水
23	日	23	水	23	金	23	月	23	木	23	木
24	月	24	木	24	土	24	火	24	金	24	金
25	火	25	金	25	日	25	水	25	土	25	土
26	水	26	土	26	月	26	木	26	日	26	日
27	木	27	日	27	火	27	金	27	月	27	月
28	金	28	月	28	水	28	土	28	火	28	火
29	土	29	火	29	木	29	日	29	水	29	水
30	日	30	水	30	金	30	月	30	木	30	木
31	月	31	木	31	土	31	火				
				* 専攻科平常授業							